



T.Miki

## THE OKA SHO

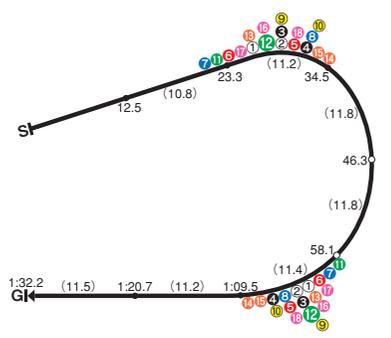
## 第84回 桜花賞 (GI)

1着 賞140,000,000円 2着 賞56,000,000円 3着 賞35,000,000円 4着 賞21,000,000円 5着 賞14,000,000円  
 付加賞 26,628,000円 7,608,000円 3,804,000円



レース映像は  
 コチラでご覧  
 いただけます。

牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬  
 負担重量 55kg



2024.4.7 阪神 晴・良 芝1600m (国際) (複定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑫	ステレンボッシュ	牝3	55	J.モレイラ	1:32.2	11-8	33.4	462(-4)	4.3②	国枝 栄(美浦)	114
2	⑨	アスコリビチェーノ	牝3	55	北村宏司	¾	8-8	33.5	478(+10)	3.5①	黒岩陽一(美浦)	112
3	⑩	ライトバック	牝3	55	坂井瑠星	クビ	17-18	32.8	470(-2)	14.6⑦	茶木太樹(栗東)	111
4	⑦	スウィープフィート	牝3	55	武 豊	½	18-17	33.0	464(-2)	11.4⑧	庄野靖志(栗東)	110
5	⑮	エトヴブレ	牝3	55	鮫島克駿	クビ	2-2	34.2	458(±0)	61.8⑨	藤岡健一(栗東)	109
6	①	ワイドラトゥール	牝3	55	北村友一	クビ	13-12	33.5	422(-6)	208.5⑩	藤原英昭(栗東)	109
7	⑩	セクトハイースト	牝3	55	藤岡佑介	¼	3-3	34.4	438(-4)	80.2⑫	四位洋文(栗東)	106
8	②	クイーンズウォーク	牝3	55	川田将雅	クビ	8-8	34.1	514(-2)	5.7③	中内田充正(栗東)	106
9	③	テウメッサ	牝3	55	岩田望来	ハナ	13-12	33.7	462(-6)	147.1⑬	金成真史(美浦)	106
10	⑥	ハワイアンティアレ	牝3	55	池添謙一	クビ	16-15	33.7	420(±0)	102.6⑭	松永幹夫(栗東)	105
11	③	イフェイオン	牝3	55	西村亨也	アタマ	8-8	34.2	472(-8)	31.1⑯	杉山佳明(栗東)	105
12	⑤	シカゴステイング	牝3	55	浜中 俊	1½	6-5	34.6	434(-6)	215.2⑰	庄野靖志(栗東)	102
13	⑮	チェルヴィニア	牝3	55	B.Mルガニアフ	1½	6-5	34.8	488(+8)	6.1④	木村哲也(美浦)	99
14	⑭	マスクオールウィン	牝3	55	津村明秀	クビ	15-14	34.2	490(-2)	109.4⑱	牧 光二(美浦)	98
15	⑮	セシリエブラージュ	牝3	55	M.デムーロ	クビ	11-12	34.4	404(-6)	122.2⑲	中村直也(栗東)	98
16	④	コランビート	牝3	55	横山武史	¾	3-5	35.0	454(+12)	7.7⑤	加藤士津八(美浦)	96
17	④	ショウナンマヌエラ	牝3	55	岩田康誠	2½	1-1	35.9	470(+2)	340.2⑳	高野友和(栗東)	91
18	④	キャットファイト	牝3	55	松山弘平	½	3-3	35.6	438(-4)	99.1⑩	上原博之(美浦)	90

単勝@430円(2½%) 複勝@150円(2½%) ⑨140円(1½%) ⑩340円(7½%) 枠連⑤-⑥560円(1½%)

馬連⑨-⑫620円(1½%) ワイド⑨-⑫280円(1½%) ⑩-⑫970円(13½%) ⑨-⑫940円(12½%)

馬単⑨-⑫1,240円(2½%) 3連複⑨-⑩-⑫3,260円(9½%) 3連単⑨-⑩-⑫11,470円(25½%)

5重勝⑤⑮①④⑫20,600円(24,227票) 対象競走: 中山10R/阪神10R/福島11R/中山11R/阪神11R

### アラカルト

- ・J.モレイラ騎手は桜花賞初勝利。JRA重賞は通算11勝目
- ・国枝栄調教師は桜花賞3勝目。JRA重賞は通算67勝目
- ・エビファネリア産駒はJRA重賞通算20勝目
- ・エトヴブレの藤岡康太騎手は4月6日・阪神第7競走での落馬負傷のため鮫島克駿騎手に変更
- ・非当選馬 1頭(ボンドガール)
- ・非抽選馬 7頭(オオナミコナミ、クリノオリーブ、クリノハレルヤ、ジューンブレア、タガノエルビーダ、ネグレスコ、ルージュスエルテ)
- ・ステレンボッシュ、アスコリビチェーノ、ライトバック、スウィープフィート、エトヴブレはオクス(GI)に優先出走できる

# ステレンボッシュ Stellenbosch

牝鹿毛 2021.2.12生  
北海道安平町 ノーザンファーム生産  
馬主・吉田勝己氏 美浦・国枝栄厩舎  
馬名意味・南アフリカの都市名

ウインドインハーヘアIRE系 F2-I

エピファネイア 鹿毛 2010	シンボリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S. Tee Kay
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウィーク キロフプリミエールGB
ブルークランズ 鹿毛 2014	ルーラーシップ 鹿毛 2007	キングカメハメハ エアグルーヴ
	ランズエッジ 鹿毛 2006	ダンスインザダーク ウインドインハーヘアIRE

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S4×M4

## INTERVIEW

橋口敦史 厩舎長(ノーザンファーム空港)

### オークスがさらに楽しみになります

こちらに来た頃から馬体の良さが目立っていただけでなく、調教を進めてからもいい動きをしていました。ただ、成長の余地が感じられていたのと、気持ちの面でもゆとりがあったので、本当に良くなるのはオークスぐらいだと思っていました。阪神JF 2着、そして桜花賞での勝利は想像以上の活躍であり、目標としてきたオークスでの走りがさらに楽しみになります。

H.Ozawa



「満開宣言」が出た桜のもとでゲートが開くと、外からシヨウナンマヌエラが飛び出して先手を奪取。同馬は競り合いを嫌って好位に控えたものの、緩みのない流れでレースは進む。新興勢力の代表格と目されたクイーンCの覇者クイーンズウォークは中団のインを追走。アスコリビチエーノは中団馬群の外に抜け、ステレンボッシュのJ・モレイラ騎手はこれをマークするように背後で脚を溜めた。

4コーナーに差し掛かると、アスコリビチエーノは外へモタれ気味にカーブをターン。モレイラ騎手はさすが、その内に開いたスペースへ潜り込んで加速にかかる。このコース取りが明暗の分かれ目に。相手に「蓋」をしきれず、少し弾かれる格好になったアスコリビチエーノも懸命に盛り返し、さすがの底力を示したが、先行勢を呑み込み、残り200m地点で先頭に立ったステレンボッシュは最後までしっかりとした末脚を發揮。2歳女王の反撃を抑えてゴールに飛び込んだ。

昨年7月に札幌の芝1800m戦でデビュー。他馬の斜行により、1コーナーで大きく外へ振られた不利を乗り越えて勝利を飾った本馬は、サフラン賞の2着を挟んで赤松賞を快勝し、阪神ジュベナイルフィリーズへ駒を進めた。レースレコードの決着となった2歳女王決定戦は強襲及ばず2着に敗れたものの、成長力に富む血筋に裏打ちされた素質が春を迎えて大きく開花。満開の桜のもと、2歳時より大人びた走り雪辱と戴冠を果たした。

## 父エピファネイア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香、首14戦6勝(ジャパンC<sup>G1</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>、神戸新聞杯<sup>G2</sup>、ラジオNIKKEI杯2歳S<sup>Gm</sup>、日本ダービー<sup>G1</sup> 2着、皐月賞<sup>G1</sup> 2着)、15年から供用、21~23年日本2歳リーディングサイヤー2位〔代表産駒〕デアリングタクト(桜花賞<sup>G1</sup>、オークス<sup>G1</sup>、秋華賞<sup>G1</sup>、ジャパンC<sup>G1</sup> 3着)、エプフォーリア(皐月賞<sup>G1</sup>、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、日本ダービー<sup>G1</sup> 2着)、ステレンボッシュ(本馬)、サークルオブライフ(阪神ジュベナイルフィリーズ<sup>G1</sup>)、アリストテレス(アメリカJCC<sup>G2</sup>、菊花賞<sup>G1</sup> 2着)、フローザホーン(日経新春杯<sup>G2</sup>)、イズジョーノキセキ(アイルランドトロフィー府中牝馬S<sup>G2</sup>)、モリアーナ(紫苑S<sup>G2</sup>)、ジャスティンカフェ(エプソムC<sup>Gm</sup>)、セルバーグ(中京記念<sup>Gm</sup>)、ダンノデサイル(京成杯<sup>Gm</sup>)、ビザンチンドリーム(きざらぎ賞<sup>Gm</sup>)、他に活躍馬多数

## 母ブルークランズ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央9戦3勝(北大路特別)カークベイ(19 牝父アジアエクスプレスUSA)不出走(20 不受胎)

ステレンボッシュ 本馬(21 牝父エピファネイア)中央5戦3勝(桜花賞<sup>G1</sup>、赤松賞、阪神ジュベナイルフィリーズ<sup>G1</sup> 2着)獲得総賞金215,468,000円(22 牝父ヘニーヒューズUSA)(23 牝父アドマイヤマーズ)

## 祖母ランズエッジ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央0勝

ロカ(12 牝父ハービンジャーGB)中央1勝(忘れな草賞<sup>G2</sup> 2着、クイーンC<sup>Gm</sup> 3着)、レガレイラ 〇(ホープフルS<sup>G1</sup>)、ドゥラドーレス 〇(江の島S、藻岩山特別、セントポーリア賞、毎日杯<sup>Gm</sup> 3着、菊花賞<sup>G1</sup> 4着)の母エッジースタイル(13 牝父ハービンジャーGB)中央3勝(都井岬特別、アーバンシック 〇(百日草特別、京成杯<sup>Gm</sup> 2着、皐月賞<sup>G1</sup> 4着)の母ブルークランズ(14 前出)

ヴァルコス(17 牝父ノヴェリストIRE)中央2勝(ゆきやなぎ賞、青葉賞<sup>G2</sup> 2着)ギャラクシーエッジ(18 牝父エピファネイア)中央1勝(聖籠特別)

## 曾祖母ウインドインハーヘアIRE

愛、英、独3勝(アラルポカル・独<sup>G1</sup>、プリティポリーS・英I、フィリーズトライアルS・英I、英オークス<sup>G1</sup> 2着)、99年輸入、12年用途変更、ティープインバウト(日本ダービー<sup>G1</sup>、ジャパンC<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、皐月賞<sup>G1</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>、天皇賞(春)<sup>G1</sup>、宝塚記念<sup>G1</sup>、日本リーディングサイヤー)の母

## 昨年暮れの雪辱を果たし桜の女王に輝く

暮れの2歳女王決定戦でクビ差の激闘を演じたアスコリビチエーノ、ステレンボッシュは直行のローテーションを選択。一方、3歳になってから頭角を現してきた面々にも、高い将来性を感じさせる素質馬が揃った今年の桜花賞はハイレベルの混戦ムードに包まれた。新星たちを従えて一枚上の地力を示したのは阪神ジュベナイルフィリーズの1、2着馬。とはいえ無傷の戴冠に挑んだアスコリビチエーノは2着に敗れ、ステレンボッシュが暮れの雪辱を果たして桜の女王に輝いた。

当日に「満開宣言」が出た桜のもとでゲートが開くと、外からシヨウナンマヌエラが飛び出して先手を奪取。同馬は競り合いを嫌って好位に控えたものの、緩みのない流れでレースは進む。新興勢力の代表格と目されたクイーンCの覇者クイーンズウォークは中団のインを追走。アスコリビチエーノは中団馬群の外に抜け、ステレンボッシュのJ・モレイラ騎手はこれをマークするように背後で脚を溜めた。

4コーナーに差し掛かると、アスコリビチエーノは外へモタれ気味にカーブをターン。モレイラ騎手はさすが、その内に開いたスペースへ潜り込んで加速にかかる。このコース取りが明暗の分かれ目に。相手に「蓋」をしきれず、少し弾かれる格好になったアスコリビチエーノも懸命に盛り返し、さすがの底力を示したが、先行勢を呑み込み、残り200m地点で先頭に立ったステレンボッシュは最後までしっかりとした末脚を發揮。2歳女王の反撃を抑えてゴールに飛び込んだ。

昨年7月に札幌の芝1800m戦でデビュー。他馬の斜行により、1コーナーで大きく外へ振られた不利を乗り越えて勝利を飾った本馬は、サフラン賞の2着を挟んで赤松賞を快勝し、阪神ジュベナイルフィリーズへ駒を進めた。レースレコードの決着となった2歳女王決定戦は強襲及ばず2着に敗れたものの、成長力に富む血筋に裏打ちされた素質が春を迎えて大きく開花。満開の桜のもと、2歳時より大人びた走り雪辱と戴冠を果たした。